

慶藏院寺報

# 公孫樹

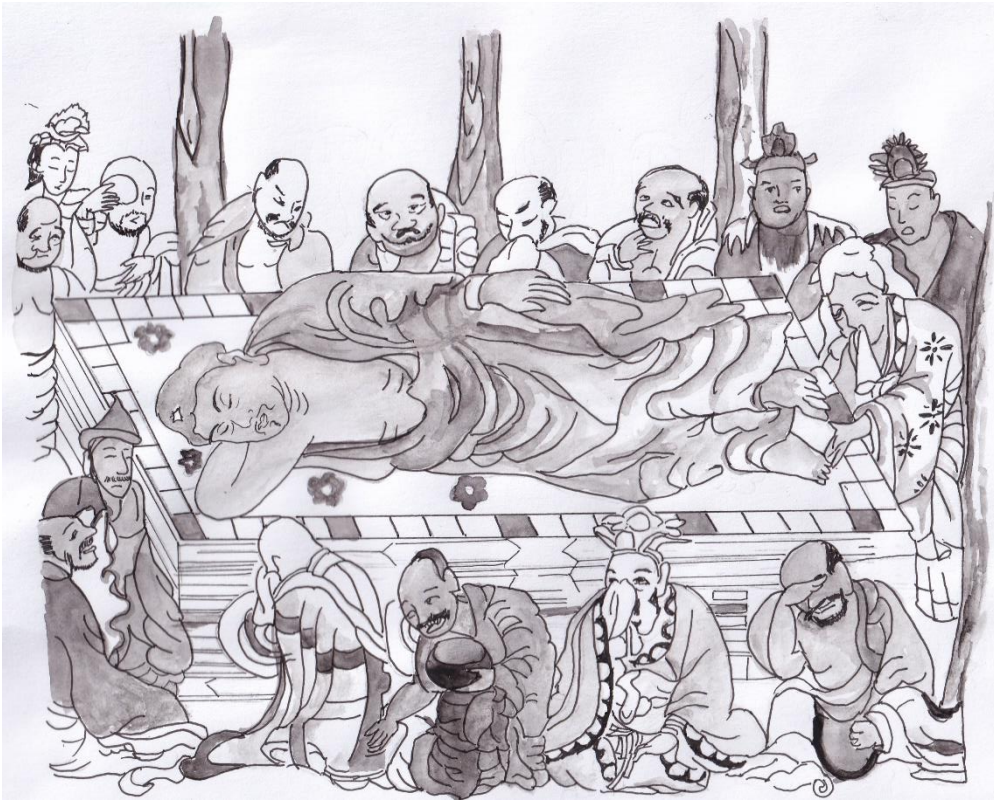
2023年4月発行

第135号

浄土宗慶藏院

伊勢市小俣町元町1211

☎0596(22)3726



涅槃図

画 山寄淑子

南無阿弥陀仏の口称念仏の内に、「いのち」は永遠に、

三月二十五日、二十六日と母の出棺、通夜、葬儀に際し、皆様から丁寧なお見送り、六百人を超えるご弔問を頂きましたこと、心よりお礼申し空けます。ありがとうございました。

先月号に書いたことです。慶藏院十七世性誉上人は、檀家の皆さんに、涅槃図を示しながら「…満月のごとき澄み切った、円満なるうるわしき姿色の中に死に往くこと。そのように死んで見せることこそ、老人の最後の務めなのだ。涅槃図はこのことを説いている」と語っておられたと感ずる…。

まさに、そのことを体現して見せてくれたように三月十五日、母親は風、妹に布団を直してもらい眠りにつきました。その時の状態のまま、私たちが気付いたとき、息を引き取っていました。まだ温かい身体に触れながら、みごとに死んで見せてくれた…と感服したのでした。

心臓と肺に水がたまり、ちょうど平成三十年十一月の五重相伝中は、ハートセンターに入院をしていました。コロナが広がりました年の一月に三度目の入院、コロナの蔓延にともない五月、自宅での介護を決め、退院させました。月に一回ほどの通院を続けながらの自宅療養となったわけです。

「介護されるものより、介護するものの方がずっとしんどい…、こつやつて皆に助けてもらっているのだから、もうちょっと生きることにするわ」という言葉通り、母親は元気になり、「慶藏院豆知識」を書き始め、三十一回まで連載しました。三月には四月号の原稿のことも時折口にしていました。また父親の十七回忌と機を一にしてのケーブルテレビ「お年寄ばんざい」への出演は、母親の様々な一面を皆さんに知っていただくこととなりました。あの調子で「子育て」にも「あおい園、和順幼稚園」にもかかわってきた母親でした。極楽に往生し、ますます元気に明るく務めを果たしていくことと思います。皆さん、本当にありがとうございました。

# 4月の行事予定



5日(水)	写経会 男性詠唱隊	午前10時～ 午後7時～
12日(水)	落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後7時～ 一会館にて 無料 おひねり歓迎
19日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 参加費500円
8日・22日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円
9日(火)	花まつり・子ども会	午前10時～12時
25日(火)	戦没者慰霊平和の鐘	朝の勤行にて⇒26日に実施
26日(水)	地藏講・地藏堂開帳	午後1時半～3時
8日・12日(土)	英語歌クラブ 講師 八木和美先生	午後1時～3時 一会館にて参加費 1回 500円 テキスト代月500円
13日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 一会館にて 参加費1回1000円
14日・28日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 大人500円 一会館にて

## 慶蔵院豆知識

### 追悼①

今回から二回に分けて、通夜と葬儀にいただいた「送る言葉」を紹介させていただきます。まず最初は、通夜の際にいただいたお二人からの送る言葉です。

私が副園長先生に出会ったのは、今から十六年前、和順幼稚園に入園した時です。振り返ってみると沢山の思い出があります。和順幼稚園に通っていた頃は、きびしい印象が強かった副園長先生でした。でも今は、その厳しさは、自分にとって成長するうえで必要だったと思えるようになりました。

紙芝居やお話しも素晴らしく、興味津々で聞いていたのを覚えています。私は五歳からピアノを習い始め、和順幼稚園を卒園後も、ピアノを習いに通い続けています。副園長先生は、私と会ったびに孫のように優しく接してくださいました。中学校に入学した時や高校に入学した時にも、すごく喜んでくださり、応援してもらいました。中でも大学の合格通知が届いたときには、慶蔵院まで報告に来ました。その時も本当に喜んで下さいました。

私は今、保育士、幼稚園教諭を目指して勉強しています。あの時応援してもらったことを忘れず、副園長先生のような立派な先生になれるように、今後の学生生活を頑張りたいと思います。今まで本当にお世話になりました。これからも見守ってってください。ありがとうございました。

和順卒園生代表 大学二年 北山雅輝



# 子ども会と花まつり

4月9日(日) 10時

## 第一部

絵本読み聞かせ・紙芝居  
高橋さんグループ



## 第二部

### 花まつり

お釈迦様の誕生をお祝いします。  
お花をお供えて、甘茶をかけましょう。  
花がある方は、お持ちください。甘茶をお分けしますので、ペットボトルをご用意下さい

浄土宗新聞を無料で  
お渡しします!!



5ページ 「教養としての仏教」  
浄土教は、弱者救済に主眼を置いた仏教です。  
私たちが輪廻から解脱するためには、仏道修行をする他に手段はない…。念仏を称えと阿弥陀様に導いててもらい、解脱できるのです。

落語会「いちご亭」無料です

面白かったら  
第2水曜12日 午後7時慶應院の落語会



### 住職の健康回復への道のり(十四)

二月の検査で七秒ほど心臓が止まっていたとの検査結果を受けて、再度行った二十四時間ホルター検査では、四秒に減っていました。また、同時期に行った無呼吸症候群の検査では、前回十八回呼吸が止まっていたのが、八回に減っていました。油断をせずに疲れを残さないように注意していくこと。お腹を柔らかくすることで深い呼吸を可能にする内臓調整が、大切であることを再実感しています  
その他、尿酸値も下がりました。ただしクレアチニンが基準を超えていますから、腎臓への負担を軽減していくことを考えなければなりません。

合わせて当面の課題となってきたことが帯状疱疹です。三月十五日、背中左側に赤い発疹がいつぱい出ました。それが痛いのです。最初何かかわらないまま、二日たつて、「これは带状疱疹、皮膚科へ…」と言われ、塗り薬と合わせて四種類の薬をもらいました。免疫力が低下した際に起きる病気だそう、まだ歩くと内部に痛みがのこっています。これを早く治さなければなりません。

蝶が舞つこの世とあの世往き来する

(「知恩」四月号「柳壇」に掲載)

奥田 悦生

### 追悼②

前島副園長先生へ

おばちゃん先生に初めて出会ったのは今から四十四年前…。あおい園に入園した時です。いつも泣いていて、担任の先生がいないとポーツと立っていたり…。お弁当がいる時、お母さんが作れなかった時いつもおばちゃん先生が作ってくれた。又ピアノをならっていたのでこちらに毎週来て園庭で遊んだり、この本堂へこっそり入ったり、家の中もあっちこっちへ行ったり、いちようの木が色づく頃にはたくさん銀杏の実をひろったり、のどがかわけば台所へ行って水を飲んだりと自由にすごさせてもらったのを、よく覚えています。  
私が小学生の時に和順幼稚園が出来、十八才までおじゃましていました。自分の子供達二人も和順幼稚園で大変お世話になりました。久しぶりに会った先生は「まあー!!!来てくれるの!!」と何も変わらず昔のままの笑顔がステキなおばちゃん先生でした。園に来ると玄関からおばちゃん先生の姿が見え、いつも何か物を作ったりしてましたよね。先生のパワフルな元気ではっきりした大きな声、笑顔、リアクション、色々な発想力…すごすぎる!!!っていつも思っていました。子供達二人も本当によくしてもらいました。特に娘は園を卒業しても本当によく園におじゃまさせて頂き色々な事をお世話ったと思います。「おばちゃん先生…そんな七実はもう中学3年生になりますヨ遙斗も高校3年生ですヨ!!」先生ぎゅーってだきしめたり、ぎゅーって手をにぎってくれたりしてくれましたよね…おばちゃん先生…たくさんのパワーをみんなに届けてくれてノンストップで走り続けて来られましたよね。どうかゆっくり体を休めて下さい。休んでなんかおられへん!!!ってきつと言つたでしょうね。おばちゃん先生ありがとうございました。

あおい園卒園生 和順幼稚園保護者代表

居崎真矢





# よき朋の あるの 一番の 財産

中野善英上人

今回の葬儀費用の大半は、檀家の皆さんから毎年納入していただいている護持会費を財源として実施させていただきました。これをもって檀家葬と称し、葬儀委員長のもと、葬儀を執行していただいた次第です。加えて、テントの設営、駐車場の確保、交通整理、当日の役割分担、後片付け、僧侶方の接待まで、寺世話人さん、男性詠唱隊のみなさん、檀家有志の皆さんに助けていただくことができました。

受付では「記帳のみ」に〇印をしていただいて、ぜひ多くの皆さんに参列いただき、お念仏で送っていただければありがたいとお願いしたところ、雨の中の葬儀にもかかわらず、六百名を超える皆さんに参列賜り、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と故人の往生を願っていただけましたこと、かけがえのない喜びです。さらにご厚志まで賜り心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

葬儀に関する会計報告は、五役会議を経て、改めて五月には文書でもって報告をさせていただきます。

今回の檀家葬を通して、葬儀の意義をさらに深く考えることができました。一つ目の意義として、葬儀にはすべての縁が合流する場であるということです。母親が一生でかかわった親族はもとより、友人、幼稚園、檀信徒の皆さん、そればかりか親族の縁につながる仕事関係のみなさんが参列してくださいました。二つ目の意義として、葬儀を通して参列してくださった皆さんに「お念仏」との縁を結んでもらう意義があるということです。そのために葬儀の内容、あり方にも一定の創意・工夫がいるのではないかと、という取り組みに一步踏み込むことができたのではないかと思います。

これが通夜と葬儀式の中の「送る言葉」とピアノ演奏の挿入、葬儀の最後に木魚念仏による参列者焼香の導入となりました。

参列していただいた皆さんの率直な声をいただきつつ、今回の檀家葬を通して、これからの葬儀の在り方、慶蔵院で行う「寺院葬」の内容、あり方の創造に生かしていただきたいと思います。今回の葬儀はその方向性を指示してくれた三つ目の意義がありました。